３Ｒ瓦版（11月号） 2018年

© 2018 フジコ イトウ All Rights Reserved.

REPAIR FACTORY ㈲本杉工機
京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地
tel：0774-66-6254

『自然との共生、資源循環の大事さを考えてみませんか？』

当社は、公害国会で、廃棄物処理法が、成立いたしました翌年の昭和 46 年に、千葉県市川市に創業以来、半世紀近くにわたり、首都圏を中心とした産業廃棄物、一般廃棄物処理事業を運営してきております。

平成 4 年以降のリサイクル関連施策の新たな制度化等に対応し、平成 10 年に成立された家電リサイクル法に基づき使用済家電製品の素材化処理を行います(株)ハイパーサイクルシステムズ、また、同年に設立されました一般廃棄物処理に、初の PFI 手法を導入致しました官民協調の株式会社であります(株)かずさクリーンシステムの設立に、参加致しております。

また、平成 12 年の循環型社会形成推進基本法の成立以降は、平成15年に、バイオエナジー(株)(食品リサイクル法の食品廃棄物をメタン発酵処理し、発生したバイオガスで、発電と都市ガスの供給を実施しております。)、平成 18 年に、エム・エム・プラスチック(株)(容器包装リサイクル法のプラスチック製容器包装をリサイクルし、高品質な物流パレット等を製造・販売する事業を運営)を設立してきております。

昨年 4 月に持ち株会社体制へ移行しまして、(株)市川環境ホールディングスのグループ会社の一員として、新たなスタートを切っております。

本社が所在する市川市は、古代には、万葉集にも詠われた「真間の入り江」が広がっていたようです。「真間の入り江」は、既に、奈良時代には、低湿地帯になっていたようです。

平安時代中期には、更級日記の作者菅原の孝標の次女らの一行は、上総国府(市原市)から、京都への帰路、松里(市川市域)付近で、太井川(現在の江戸川)を渡ったようです。

また、近世には、芭蕉と門人曾良等が、江戸深川から川船に乗り、江戸川左岸に上がり、今の市川市内域を通り、利根川から、夜船に乗り、鹿島神宮などを訪ねたそうで、下利根川の水上交通網拠点の一つであったようです。(1)

「真間の入り江」を偲ばせる市域を流れる真間川は、昭和 33 年の狩野川台風で、以降全国に波及することとなる都市型水害を被っております。この都市型水害に対しましては、従来の河川改修を中心とする治水工事だけでは、不十分との認識で、豪雨を可能な限り、流域内において貯留もしくは浸透させる「総合的な治水対策」が、昭和 52 年から始まり、真間川もこの事業の対象となっております。この事業は、自然界の水循環を幾分なりとも回復しようとの自然との共生の萌芽であったとの指摘もあるようです。(2)

地球的規模の環境変化に見舞われ、大規模自然災害の脅威を実感する今日、真間川に架かる「継橋」を謳った鴨長明の「こものはにすだく蛍のほのぼのとたどりぞわたるままの継橋」におもいを馳せつつ、自然との共生、資源循環の大事さを考えていきたいと思います。

参考文献)
(1)日本の水環境 ③関東・甲信越編 (社)日本水環境学会編 技報社
(2)岩波講座 地球環境学 7 水循環と流域環境

株式会社市川環境エンジニアリング 顧問 森 一晃